

下京区における地域包括支援センター担当区域の見直しについて

1 地域包括支援センター担当区域の考え方

地域包括支援センターの担当区域は、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件などを総合的に勘案し、第1号被保険者3～6千人に1センターという基準を目安に、複数学区を束ねる形で設定している。

(参考) 人員配置基準

第1号被保険者数（高齢者数）※概ね	3,000人未満		3,000人以上 6,000人未満		6,000人以上 8,000人未満		8,000人以上 10,000人未満		10,000人以上
上記のうちの 単身高齢者世帯数※概ね	950未満	950以上	1,900未満	1,900以上	2,500未満	2,500以上	3,150未満	3,150以上	—
専門3職種	2人	3人	3人	4人	4人	5人	5人	6人	6人

2 下京区における地域包括支援センター担当区域の現状

- 高齢者数が増加する地域がある一方で、転出等により高齢者数が減少に転じている地域もある。中でも下京東部の担当区域（稚松、崇仁、皆山、菊浜）については、高齢者数の減少幅が大きく、単身高齢者世帯数が950を下回る状況が続いている。
- 地域包括支援センターの人員体制は、担当する区域の高齢者数及び単身高齢者世帯数を基に配置しているが、下京東部の担当区域については、人員配置基準上2名体制となるほどに、高齢者数及び単身高齢者世帯数が減少している。
- 地域包括支援センターは、保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士といった専門3職種によるチームアプローチが強みとなっているが、下京東部の担当区域ではその強みが活かせてなくなっている。

(参考) 下京区における各区域（担当学区）の状況

包括名	担当学区	R 3		R 4		R 5	
		高齢者数	単身	高齢者数	単身	高齢者数	単身
下京西部	大内、七条、西大路	3,900	1,474	3,811	1,469	3,796	1,475
下京中部	格致、醒泉、植柳、安寧、梅逕	3,145	1,197	3,135	1,239	3,127	1,254
下京東部	稚松、皆山、菊浜、崇仁	2,043	937	1,963	925	1,915	905
修徳	永松、開智、豊園、成徳、有隣、修徳、尚徳	3,741	1,477	3,740	1,488	3,779	1,538
島原	郁文、淳風、光徳、七条第三	5,356	1,996	5,323	2,044	5,333	2,072

※高齢者数及び単身は各年の12月末現在の数字

3 見直し案

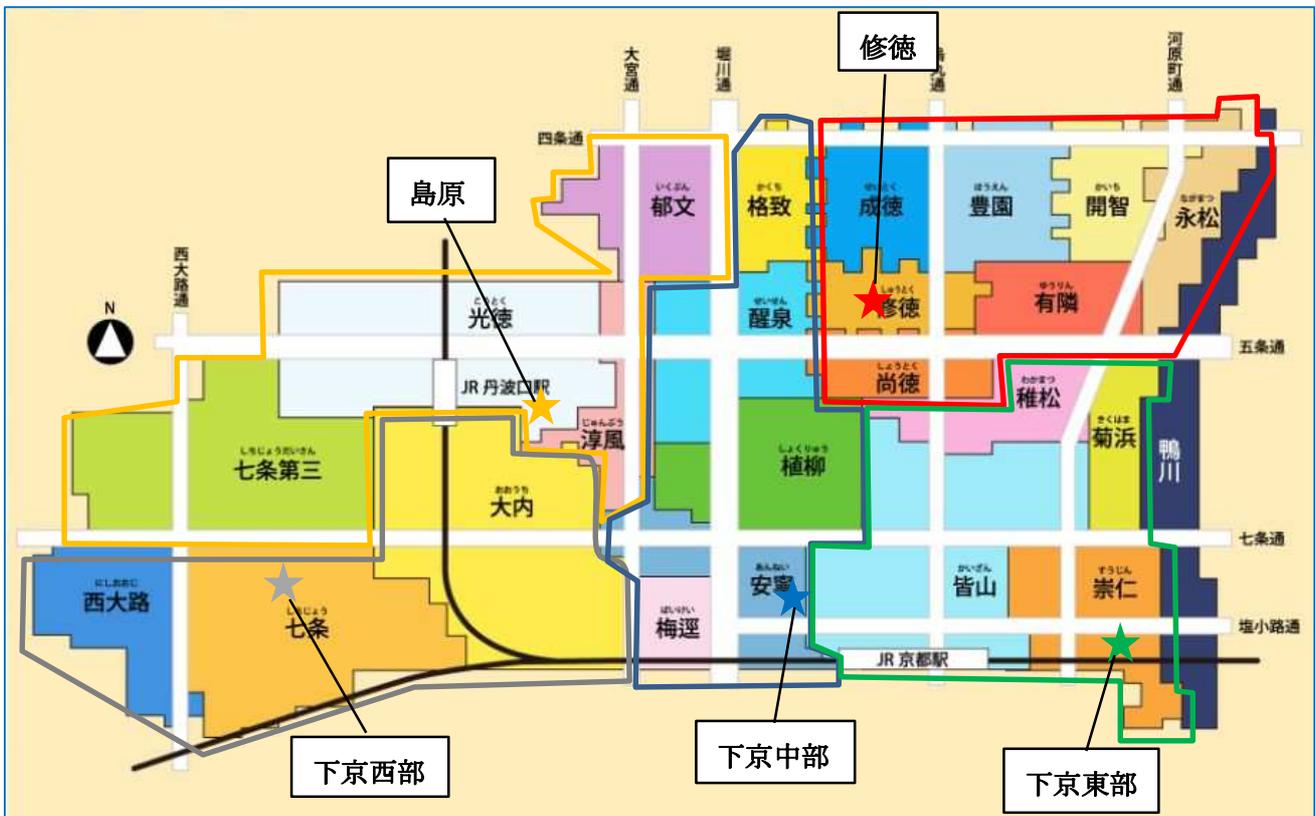
修徳区域の有隣学区について、下京東部区域に編入する。

		令和6年1月				令和6年1月	
		高齢者数	単身世帯数			高齢者数	単身世帯数
下京東部	計	1,915	905	下京東部	計	2,678	1,239
	稚松	445	168		稚松	445	168
	崇仁	494	272		崇仁	494	272
	皆山	548	260		皆山	548	260
	菊浜	428	205		菊浜	428	205
修徳	計	3,778	1,538	修徳	有隣	763	334
	永松	389	174		計	3,015	1,204
	開智	447	182		永松	389	174
	豊園	626	243		開智	447	182
	成徳	500	186		豊園	626	243
	有隣	763	334		成徳	500	186
	修徳	598	262		修徳	598	262
	尚徳	455	157		尚徳	455	157

下京東部区域に隣接する学区は5学区あるが、有隣学区が以下の条件から編入に適している。

- ・安寧学区は下京中部包括の事業所がある。
- ・植柳学区は編入すると下京中部区域が分断される。
- ・永松学区は縦長であり、最北は下京東部の事業所から遠い。
- ・尚徳学区は単身高齢者世帯数が少なく、数年後に再度基準を下回る可能性がある。

(参考) 現在の下京区の地域包括支援センターの担当学区



4 見直しの時期

令和7年4月